

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年2月5日
【四半期会計期間】	第75期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	日本航空株式会社
【英訳名】	Japan Airlines Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 赤坂 祐二
【本店の所在の場所】	東京都品川区東品川二丁目4番11号
【電話番号】	03-5460-3121（代表）
【事務連絡者氏名】	財務部長 西澤 修英
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東品川二丁目4番11号
【電話番号】	03-5460-3121（代表）
【事務連絡者氏名】	財務部長 西澤 修英
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 第3四半期連結 累計期間	第75期 第3四半期連結 累計期間	第74期
会計期間	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2023年4月1日 至2023年12月31日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	1,005,590 (387,067)	1,249,365 (428,427)	1,375,589
財務・法人所得税前利益 (百万円)	34,715	128,979	64,563
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	16,313 (18,471)	85,872 (24,201)	34,423
四半期(当期)包括利益 (百万円)	9,114	87,724	18,257
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	788,388	876,752	816,288
総資産額 (百万円)	2,439,645	2,621,541	2,520,603
基本的1株当たり四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	37.33 (42.27)	196.50 (55.38)	78.77
希薄化後1株当たり四半期(当期)利益 (円)	-	-	-
親会社所有者帰属持分比率 (%)	32.3	33.4	32.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	191,426	273,279	292,908
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	74,070	155,731	112,766
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	61,106	79,903	38,465
現金及び現金同等物の四半期末(期末) 残高 (百万円)	553,050	684,059	639,247

(注) 1. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しており、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

3. 上記指標は、国際会計基準(以下「IFRS」という。)により作成された要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年12月31日）（以下「当第3四半期」という。）の末日現在において判断したものです。

#### （1）財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況

##### 財政状態

##### 資産、負債および資本の状況

当第3四半期末の総資産は、主に航空機建設仮勘定の増加により、前連結会計年度末に比べ1,009億円増加し、2兆6,215億円となりました。

負債は、主にその他の金融負債の増加により、前連結会計年度末に比べ425億円増加し、1兆7,062億円となりました。

資本は、配当金の支払いで減少したものの、主に親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上により、前連結会計年度末に比べ、583億円増加し、9,153億円となりました。

手元流動性については、当第3四半期末時点で6,840億円の現金及び現金同等物を保有していることに加え、未使用のコミットメントライン1,500億円を確保しております。なお、コミットメントラインについてはコロナ禍で増額しておりましたが、業績およびキャッシュ・フロー状況の改善を踏まえ2023年6月30日に減額しております。

詳細は、「第4 経理の状況 1 要約四半期連結財務諸表（1）要約四半期連結財政状態計算書」をご覧ください。

##### 経営成績

当第3四半期における売上収益は1兆2,493億円（前年同期比24.2%増加）、営業費用は1兆1,296億円（前年同期比14.1%増加）となり、財務・法人所得税前利益（当社は、四半期利益から法人所得税費用、利息およびその他の財務収益・費用を除いた「財務・法人所得税前利益」をEBITと定義しております。以下「EBIT」という。）は1,289億円（前年同期比271.5%増加）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は858億円（前年同期比426.4%増加）となりました。

##### キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ448億円増加し、6,840億円となりました。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

税引前四半期利益1,239億円に、減価償却費等の非資金項目および営業活動に係る債権・債務の加減算等を行った結果、営業活動によるキャッシュ・フロー（インフロー）は2,732億円（前年同期は1,914億円のキャッシュ・インフロー）となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

固定資産の取得による支出を主因として、投資活動によるキャッシュ・フロー（アウトフロー）は1,557億円（前年同期は740億円のキャッシュ・アウトフロー）となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

長期借入金の返済による支出および配当金の支払を主因として、財務活動によるキャッシュ・フロー（アウトフロー）は799億円（前年同期は611億円のキャッシュ・アウトフロー）となりました。

まず経営課題について、当社グループは、航空輸送のサステナビリティを確かなものにするために大きく二つの課題に取り組んでいます。一つはカーボンニュートラルの実現、もう一つは人的資本経営です。

カーボンニュートラルの実現に向けては、2023年6月にShell社の航空燃料部門であるShell Aviationと2025年から米国ロサンゼルス国際空港にてSAF (Sustainable Aviation Fuel) を調達する契約を締結しました。これにより「2025年度に全燃料搭載量の1%をSAFに置き換える」という目標を達成できる見込みとなりました。また、同月に省燃費機材の円滑な導入のため、当社として2回目となるトランジションボンドを発行いたしました。さらに、2024年1月にエアバスA350-1000型機を導入し、より環境に配慮したフライトをご提供します。当社グループのこのようなサステナビリティに関する取り組みやサービス品質等が世界最高水準と評価され、2023年9月にはAPEX (Airline Passenger Experience Association) 「WORLD CLASS」を3年連続で受賞し、2023年12月にはESG投資の代表的指数であるDJSI Asia Pacific Index (Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index)の構成銘柄に世界の航空業界トップのスコアで2年連続選定されました。今後も「2030年度に全燃料搭載量の10%をSAFに置き換える」という目標達成のため重要となる国内におけるSAF商用化および普及・拡大に向け、ご関係の皆さまと横断的に協力して取り組んでまいります。

人的資本経営については、現在当社グループの人員数はコロナ前と同水準を確保しているものの、今後の人財不足に鑑み、2023年4月には3年ぶりに約2,000名の新入社員を迎え、キャリア採用、インターンシップの募集も開始しました。また、デジタルや新技術を活用し、少ない人数でも同じアウトプットを実現できるよう社員へのDX教育を実施する等、生産性向上を進めております。このほか、将来の航空整備士の養成・確保のためANAホールディングス株式会社と共同で無利子貸与型奨学金「航空整備士育成支援プログラム」を創設、持続可能な空港グランドハンドリングに向け個社の垣根を越えて協力する取り組みを開始しております。今年度は4年ぶりに大幅なベースアップも実施しており、当社グループは今後も人財を資本ととらえて企業価値向上につながる人的資本経営を推進してまいります。

安全については、株式会社JALエンジニアリングが2023年9月に発生した不適切な整備処置などにより、国土交通省から業務改善勧告を受けました。事例発生以降速やかに改善措置を講じており、今後ともお客さまに安心してご搭乗いただけるよう努めてまいります。

2024年1月1日に発生いたしました令和6年能登半島地震については、被災地への救援のため、イオン株式会社と協力して支援物資を輸送いたしました。被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。

以下、当第3四半期における当社グループの経営状況につき、事業領域ごとの状況を概括します。

#### フルサービスキャリア事業領域

国際旅客では、日本における水際対策が終了、自由な往来が再開し、コロナ前を上回る事業規模への成長に向けた準備が整っております。旅客数は、日本発着路線への供給座席数が戻り切らない中において、2023年10月の訪日旅客数がコロナ前の水準を超える等、好調なインバウンドが寄与し、コロナ前の約68%まで回復しております。イスラエル軍とイスラム組織ハマスとの戦闘等の新たな地政学リスクの発生や、中国線の需要回復の遅れはありますが、業績への影響は限定的であり、需要がコロナ前を上回ったインバウンドに比べ回復の遅れていた日本発の需要も徐々に戻っております。結果として、国際旅客全体の旅客数はほぼ想定並み、単価水準は想定を超えて推移しました。また、2024年度夏期ダイヤより欧州・アフリカ・南米方面への新たなゲートウェイとして羽田＝ドーハ線の新規就航を決定しました。さらに、エアバスA350-1000型機の導入により、脱炭素の推進に加え、最新の快適性をご提供し商品サービスの強化も進めてまいります。

国内旅客では、行動制限がなくなり、以前のような社会経済活動が再開したことで、すでにコロナ前同水準の供給体制でお客さまをお迎えしております。運賃をシンプルな体系へ移行したことで、お客さまの利便性向上と単価向上を両立できております。その結果、旅客数はほぼ想定並み、単価水準は想定を上回って推移し、好調を維持しております。2023年度冬期ダイヤより、株式会社北海道エアシステムが札幌丘珠＝根室中標津線に新規就航しており、医療・防災を支える札幌市と中標津町をはじめとした根室エリアのつながりを強化することにより地域社会の発展に貢献してまいります。

貨物事業では、日本発着貨物需要の回復が遅れている中、アジア・中国＝北米間の需要獲得に努めるとともに、医薬品・生鮮貨物等の高付加価値貨物を中心に物量の最大化を図り、収入はコロナ前を上回りました。また2024年2月より、ボーイング767-300ER型貨物専用機の運航を開始いたします。グローバルにロジスティクス事業を展開しているDHL Express社との強固なパートナーシップを基盤に、旺盛なeコマース需要を取り込む東アジア域内ネットワークを構築し、航空貨物事業の持続的な成長を目指し、社会とお客さまに貢献してまいります。

費用面においては、為替水準は想定よりも円高に、燃油価格も想定より低く推移いたしました。そのため、燃油費用を中心にコストが下がっております。このトレンドが第4四半期も継続すれば、より一層コストが低減する見込みです。燃油費以外の変動費や固定費においても順調にコスト抑制が図られております。

## LCC事業領域

国際線中長距離LCCである株式会社ZIPAIR Tokyo（以下、ZIPAIR）は2023年6月よりサンフランシスコ線、7月からはマニラ線に新規就航し、就航地点は北米・アジアを中心に8地点まで拡大し、順調に利益を積み重ねております。中国線の需要が少しずつ回復する中、スプリング・ジャパン株式会社（以下、スプリング・ジャパン）は3年8カ月ぶりに成田＝上海線の運航を再開しており、ジェットスター・ジャパン株式会社を含めた特徴の異なるLCC3社による成田空港をハブとしたネットワーク構築に努め、若年層やファミリー層等、新たな人流の創出を目指してまいります。

## マイル・ライフ・インフラ事業領域

2024年1月よりJALグローバルクラブが生まれ変わり、単年度のみのご搭乗実績によるステイタス進呈から、お客さまの生涯を通じたJAL便のご利用および、日常生活のさまざまなサービスのご利用で、ステイタスポイントがたまり続ける「JAL Life Status プログラム」を開始しました。日常生活のさまざまなシーンでマイルをためて、JALならではの特別な体験へマイルを交換できる「JALマイルライフ」を引き続き推進してまいります。また、混雑する時期でもマイルで予約できる「特典航空券PLUS」のご利用も増えており、マイルのためやすさ・つかいやすさ向上に取り組んでおります。非航空事業領域では、今後も人やモノのつながりを創造し、新たな収益源にするとともに、つながりを新たな航空需要に結びつけ、航空事業の収益拡大につなげてまいります。

連結業績は次のとおりです。

項目	前第3四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同期比 (利益率は ポイント差)
売上収益 (億円)	10,055	12,493	124.2%
FSC国際旅客収入 (億円)	2,871	4,717	164.3%
FSC国内旅客収入 (億円)	3,355	4,224	125.9%
FSC貨物郵便収入 (億円)	1,834	1,019	55.6%
FSCその他収入 (億円)	115	135	117.5%
LCC (億円)	194	482	248.7%
マイル・ライフ・インフラ (億円)	1,685	1,914	113.6%
営業費用 (億円)	9,901	11,296	114.1%
航空燃油費 (億円)	2,416	2,662	110.2%
航空燃油費以外 (億円)	7,484	8,634	115.4%
財務・法人所得税前利益 (EBIT) (億円)	347	1,289	371.5%
EBITマージン (%)	3.5	10.3	6.9
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (億円)	163	858	526.4

(注) 1. 金額については切捨処理、比率については四捨五入処理しております。

2. FSCは、フルサービスキャリアを指します。

3. LCCは、連結子会社のZIPAIRおよびスプリング・ジャパンの旅客収入です。

4. 当社は、四半期利益から法人所得税費用、利息およびその他の財務収益・費用を除いた「財務・法人所得税前利益」をEBITと定義しております。

5. EBITマージン = 財務・法人所得税前利益 (EBIT) / 売上収益

セグメントの経営成績は、次のとおりです。

< 航空運送事業セグメント >

当第3四半期における航空運送事業セグメントの経営成績については、売上収益は1兆1,448億円（前年同期比24.0%増加）、投資・財務・法人所得税前利益（以下「セグメント利益」という。）は1,180億円（前年同期比451.0%増加）となりました。（売上収益およびセグメント利益はセグメント間連結消去前数値です。）

航空運送事業セグメントの部門別売上収益は、次のとおりです。

科目	前第3四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	構成比 (%)	当第3四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	構成比 (%)	対前年 同期比 (%)
国際線（FSC）					
旅客収入（百万円）	287,123	31.1	471,787	41.2	164.3
貨物収入（百万円）	156,294	16.9	76,602	6.7	49.0
郵便収入（百万円）	9,142	1.0	7,533	0.7	82.4
手荷物収入（百万円）	1,332	0.1	1,171	0.1	88.0
小計（百万円）	453,892	49.2	557,095	48.7	122.7
国内線（FSC）					
旅客収入（百万円）	335,569	36.4	422,575	36.9	125.9
貨物収入（百万円）	15,250	1.7	15,025	1.3	98.5
郵便収入（百万円）	2,754	0.3	2,767	0.2	100.5
手荷物収入（百万円）	296	0.0	360	0.0	121.7
小計（百万円）	353,871	38.3	440,729	38.5	124.5
国際線・国内線（FSC） 合計（百万円）	807,764	87.5	997,825	87.2	123.5
旅客収入（LCC） （百万円）					
ZIPAIR	13,953	1.5	39,228	3.4	281.1
スプリング・ジャパン	5,469	0.6	9,069	0.8	165.8
小計（百万円）	19,423	2.1	48,298	4.2	248.7
その他 （百万円）	95,845	10.4	98,686	8.6	103.0
合計（百万円）	923,033	100.0	1,144,810	100.0	124.0

（注）1．金額については切捨処理、比率については四捨五入処理しております。

2．FSCは、フルサービスキャリアを指します。

輸送実績（フルサービスキャリア）は、次のとおりです。

項目	前第3四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同期比 (利用率は ポイント差)
<b>国際線</b>			
有償旅客数 (人)	2,950,455	4,954,529	167.9%
有償旅客キロ (千人・キロ)	19,130,340	28,124,740	147.0%
有効座席キロ (千席・キロ)	27,055,126	35,574,368	131.5%
有償座席利用率 (%)	70.7	79.1	8.4
有償貨物トン・キロ (千トン・キロ)	2,167,476	1,901,634	87.7%
郵便トン・キロ (千トン・キロ)	95,031	80,363	84.6%
<b>国内線</b>			
有償旅客数 (人)	22,353,270	26,644,704	119.2%
有償旅客キロ (千人・キロ)	17,148,876	20,208,398	117.8%
有効座席キロ (千席・キロ)	26,552,537	26,565,031	100.0%
有償座席利用率 (%)	64.6	76.1	11.5
有償貨物トン・キロ (千トン・キロ)	211,065	216,861	102.7%
郵便トン・キロ (千トン・キロ)	16,820	16,669	99.1%
<b>合計</b>			
有償旅客数 (人)	25,303,725	31,599,233	124.9%
有償旅客キロ (千人・キロ)	36,279,216	48,333,138	133.2%
有効座席キロ (千席・キロ)	53,607,664	62,139,399	115.9%
有償座席利用率 (%)	67.7	77.8	10.1
有償貨物トン・キロ (千トン・キロ)	2,378,541	2,118,496	89.1%
郵便トン・キロ (千トン・キロ)	111,851	97,033	86.8%

輸送実績（LCC）は、次のとおりです。

項目	前第3四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同期比 (利用率は ポイント差)
<b>ZIPAIR</b>			
有償旅客数 (人)	306,107	830,556	271.3%
有償旅客キロ (千人・キロ)	1,518,934	4,576,877	301.3%
有効座席キロ (千席・キロ)	3,303,124	5,838,993	176.8%
有償座席利用率 (%)	46.0	78.4	32.4
<b>スプリング・ジャパン</b>			
有償旅客数 (人)	340,051	582,056	171.2%
有償旅客キロ (千人・キロ)	281,766	604,387	214.5%
有効座席キロ (千席・キロ)	556,187	886,993	159.5%
有償座席利用率 (%)	50.7	68.1	17.5

- (注) 1. 旅客キロは、各区間有償旅客数(人)に当該区間距離(キロ)を乗じたものであり、座席キロは、各区間有効座席数(席)に当該区間距離(キロ)を乗じたものです。輸送量(トン・キロ)は、各区間輸送量(トン)に当該区間距離(キロ)を乗じたものです。
2. 区間距離は、IATA(国際航空運送協会)、ICAO(国際民間航空機関)の統計資料に準じた算出基準の大圏距離方式で算出しております。

3. フルサービスキャリア（国際線）：日本航空（株）、日本トランスオーシャン航空（株）  
フルサービスキャリア（国内線）：日本航空（株）、（株）ジェイエア  
日本エアークommuter（株）、（株）北海道エアシステム、  
日本トランスオーシャン航空（株）、琉球エアークommuter（株）

ただし、前年同期は、

- フルサービスキャリア（国際線）：日本航空（株）  
フルサービスキャリア（国内線）：日本航空（株）、（株）ジェイエア  
日本エアークommuter（株）、（株）北海道エアシステム、  
日本トランスオーシャン航空（株）、琉球エアークommuter（株）

4. スプリング・ジャパンの輸送実績には国際線および国内線の合計を記載しております。

5. 数字については切捨処理、比率については四捨五入処理しております。

<その他>

株式会社ジャルパックと株式会社JALUXおよび株式会社ジャルカードの概況は、次のとおりです。

株式会社ジャルパック

項目	前第3四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同期比 (%)
海外旅行取扱人数 (万人)	0.9	4.5	494.5%
国内旅行取扱人数 (万人)	152.6	132.4	86.7%
売上収益 (億円) (連結消去前)	767	899	117.2%

株式会社JALUX

項目	前第3四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同期比 (%)
売上収益 (億円) (連結消去前)	204	252	123.1%

株式会社ジャルカード

項目	前第3四半期 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同期比 (%)
カード会員数 (万人)	344.4	347.3	100.8%
売上収益 (億円) (連結消去前)	135	98	73.1%

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等による著しい変動があったものは、次のとおりです。

航空機

当第3四半期連結累計期間においての異動は、次のとおりです。

会社名	機種	異動年月・事由
提出会社	エアバスA350-1000型	2023年12月 1機購入
	ボーイング777-200型	2023年5月 2機売却 2023年12月 1機売却
	ボーイング787-8型	2023年8月 1機購入
株式会社北海道エアシステム	ATR42-600型	2023年9月 1機購入

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結などはありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	700,000,000
第1種優先株式	12,500,000
第2種優先株式	12,500,000
第3種優先株式	12,500,000
第4種優先株式	12,500,000
計	750,000,000

(注) 当社定款第6条に次のように規定しております。

「当社の発行可能株式総数は、7億5000万株とし、各種類の株式の発行可能種類株式総数は、次のとおりとする。

普通株式	7億株
第1種優先株式	1250万株
第2種優先株式	1250万株
第3種優先株式	1250万株
第4種優先株式	1250万株

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	437,143,500	437,143,500	東京証券取引所 プライム市場	完全議決権株式であり且つ、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式です。単元株式数は100株です。
計	437,143,500	437,143,500	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年10月1日 ~ 2023年12月31日	-	437,143	-	273,200	-	266,341

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記録内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 136,300 (相互保有株式) 普通株式 30,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 436,593,000	4,365,930	完全議決権株式であり且つ、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であり、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 383,600	-	-
発行済株式総数	437,143,500	-	-
総株主の議決権	-	4,365,930	-

(注) 「単元未満株式」の「株式数(株)」欄には、自己保有株式 22株が含まれております。

【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済 株式総数 に対する 所有株式 数の割合 (%)
(自己保有株式) 日本航空株式会社	東京都品川区東品川2丁目4番11号	136,300	-	136,300	0.03
(相互保有株式) 株式会社エージーピー	東京都大田区羽田空港1丁目7番1号	30,000	-	30,000	0.01
(相互保有株式) 岩手県空港ターミナル ビル株式会社	岩手県花巻市東宮野目第2地割53番地	600	-	600	0.00
計	-	166,900	-	166,900	0.04

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第3四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」という。）に準拠して作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【要約四半期連結財務諸表】

(1)【要約四半期連結財政状態計算書】

	注記	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2023年12月31日)
		百万円	百万円
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物	13	639,247	684,059
営業債権及びその他の債権	13	174,906	162,530
その他の金融資産	13	11,202	14,243
棚卸資産		36,747	43,701
その他の流動資産		60,776	86,183
流動資産合計		922,880	990,718
非流動資産			
有形固定資産	7		
航空機		839,205	844,764
航空機建設仮勘定		102,431	171,227
その他の有形固定資産		86,158	82,300
有形固定資産合計		1,027,795	1,098,292
のれん及び無形資産		83,310	84,686
投資不動産		3,296	3,351
持分法で会計処理されている投資		20,200	23,117
その他の金融資産	13	158,638	151,906
繰延税金資産		278,655	244,632
退職給付に係る資産		8,522	8,745
その他の非流動資産		17,303	16,090
非流動資産合計		1,597,722	1,630,822
資産合計		2,520,603	2,621,541

	注記	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (2023年12月31日)
		百万円	百万円
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務	13	136,138	151,607
有利子負債	8,13	111,968	125,148
その他の金融負債	13	58,749	51,875
未払法人所得税		2,642	1,284
契約負債		316,873	341,363
引当金	9	2,737	2,935
その他の流動負債		40,467	44,159
流動負債合計		669,578	718,374
非流動負債			
有利子負債	8,13	813,535	772,571
その他の金融負債	13	9,331	42,939
繰延税金負債		3,505	3,444
引当金	9	23,908	24,569
退職給付に係る負債		132,355	133,130
その他の非流動負債		11,430	11,182
非流動負債合計		994,067	987,838
負債合計		1,663,645	1,706,212
資本			
資本金		273,200	273,200
資本剰余金		273,631	273,918
利益剰余金		225,644	286,605
自己株式		408	408
その他の包括利益累計額			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産		38,384	41,488
キャッシュ・フロー・ヘッジの有効部 分		4,812	688
在外営業活動体の外貨換算差額		1,024	1,259
その他の包括利益累計額合計		44,220	43,437
親会社の所有者に帰属する持分合計		816,288	876,752
非支配持分		40,669	38,576
資本合計		856,957	915,328
負債及び資本合計		2,520,603	2,621,541

## (2)【要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	注記	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
		(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
		百万円	百万円
売上収益	5,11		
国際線旅客収入		303,961	516,383
国内線旅客収入		338,155	426,129
その他の売上収益		363,472	306,852
売上収益合計		1,005,590	1,249,365
その他の収入		18,475	6,266
営業費用			
人件費		211,579	243,705
航空燃油費		241,670	266,209
減価償却費、償却費及び減損損失	7	121,705	112,062
その他の営業費用		415,167	507,701
営業費用合計		990,123	1,129,679
営業利益		33,942	125,952
持分法による投資損益(は損失)		2,952	536
投資・財務・法人所得税前利益	5	30,990	125,415
投資から生じる収益・費用			
投資収益		3,790	3,564
投資費用		66	0
財務・法人所得税前利益		34,715	128,979
財務収益・費用			
財務収益		853	6,554
財務費用		10,903	11,562
税引前四半期利益		24,665	123,970
法人所得税費用		8,644	37,313
四半期利益		16,021	86,657
四半期利益(は損失)の帰属			
親会社の所有者		16,313	85,872
非支配持分		291	784
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		2,206	2,521
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分		52	106
純損益に振り替えられることのない項目合計		2,154	2,628
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
キャッシュ・フロー・ヘッジの有効部分		28,735	2,055
在外営業活動体の外貨換算差額		1,417	439
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分		26	53
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計		27,291	1,561
税引後その他の包括利益		25,136	1,066
四半期包括利益		9,114	87,724

注記	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
	(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
	百万円	百万円
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	9,895	85,916
非支配持分	780	1,807
1株当たり四半期利益	12	
基本的1株当たり四半期利益(円)	37.33	196.50
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	-	-

## 【第3四半期連結会計期間】

注記	前第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
	百万円	百万円
売上収益		
国際線旅客収入	131,266	172,945
国内線旅客収入	127,781	148,428
その他の売上収益	128,019	107,052
売上収益合計	387,067	428,427
その他の収入	3,712	2,127
営業費用		
人件費	72,354	85,934
航空燃油費	86,832	96,174
減価償却費、償却費及び減損損失	38,460	36,865
その他の営業費用	155,069	174,015
営業費用合計	352,717	392,989
営業利益	38,063	37,564
持分法による投資損益(は損失)	2,706	74
投資・財務・法人所得税前利益	35,357	37,490
投資から生じる収益・費用		
投資収益	327	1,019
投資費用	1,189	766
財務・法人所得税前利益	34,494	37,743
財務収益・費用		
財務収益	225	842
財務費用	7,058	3,710
税引前四半期利益	27,662	34,875
法人所得税費用	8,712	10,361
四半期利益	18,949	24,514
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	18,471	24,201
非支配持分	478	312
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	164	1,256
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	1	14
純損益に振り替えられることのない項目合計	163	1,270
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジの有効部分	11,418	17,353
在外営業活動体の外貨換算差額	164	231
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	46	41
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	11,300	17,626
税引後その他の包括利益	11,136	18,897
四半期包括利益	7,813	5,616

注記	前第3四半期連結会計期間	当第3四半期連結会計期間
	(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
	百万円	百万円
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	7,559	5,429
非支配持分	253	186
1 株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	42.27	55.38
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	-	-

( 3 ) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

親会社の所有者に帰属する持分

注記	親会社の所有者に帰属する持分				その他の包括利益累計額	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	キャッシュ・フロー・ヘッジの有効部分
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年4月1日時点の残高	273,200	273,617	176,406	408	35,512	41,018
四半期利益	-	-	16,313	-	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	2,049	29,210
四半期包括利益合計	-	-	16,313	-	2,049	29,210
配当金	-	-	-	-	-	-
ヘッジ対象の非金融資産への振替	-	-	-	-	-	1,466
子会社の支配獲得に伴う変動	6	-	-	-	-	-
子会社の支配喪失に伴う変動	-	-	-	-	-	-
支配継続子会社に対する持分変動	-	14	-	-	-	-
利益剰余金への振替	-	-	39	-	39	-
所有者との取引等合計	-	14	39	-	39	1,466
2022年12月31日時点の残高	273,200	273,631	192,679	408	37,601	10,341

親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の包括利益累計額		合計	非支配持分	合計
	在外営業活動体の外貨換算差額	合計			
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年4月1日時点の残高	390	76,921	799,736	46,330	846,067
四半期利益	-	-	16,313	291	16,021
その他の包括利益	953	26,208	26,208	1,071	25,136
四半期包括利益合計	953	26,208	9,895	780	9,114
配当金	-	-	-	2,798	2,798
ヘッジ対象の非金融資産への振替	-	1,466	1,466	644	2,111
子会社の支配獲得に伴う変動	6	-	-	2,653	2,653
子会社の支配喪失に伴う変動	-	-	-	44	44
支配継続子会社に対する持分変動	-	-	14	14	-
利益剰余金への振替	-	39	-	-	-
所有者との取引等合計	-	1,427	1,452	6,154	7,607
2022年12月31日時点の残高	1,343	49,286	788,388	40,956	829,345

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の包括利益累計額					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	キャッシュ・フロー・ヘッジの有効部分
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年4月1日時点の残高	273,200	273,631	225,644	408	38,384	4,812
四半期利益	-	-	85,872	-	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	2,227	2,419
四半期包括利益合計	-	-	85,872	-	2,227	2,419
配当金	10	-	24,035	-	-	-
株式に基づく報酬	-	291	-	-	-	-
ヘッジ対象の非金融資産への振替	-	-	-	-	-	1,704
自己株式の取得	-	-	-	0	-	-
支配継続子会社に対する持分変動	-	4	-	-	-	-
利益剰余金への振替	-	-	877	-	877	-
所有者との取引等合計	-	286	24,912	0	877	1,704
2023年12月31日時点の残高	273,200	273,918	286,605	408	41,488	688

親会社の所有者に帰属する持分

注記	その他の包括利益累計額		合計	非支配持分	合計
	在外営業活動体の外貨換算差額	合計			
	百万円	百万円			
2023年4月1日時点の残高	1,024	44,220	816,288	40,669	856,957
四半期利益	-	-	85,872	784	86,657
その他の包括利益	235	43	43	1,022	1,066
四半期包括利益合計	235	43	85,916	1,807	87,724
配当金	10	-	24,035	3,341	27,376
株式に基づく報酬	-	-	291	-	291
ヘッジ対象の非金融資産への振替	-	1,704	1,704	484	2,188
自己株式の取得	-	-	0	-	0
支配継続子会社に対する持分変動	-	-	4	74	78
利益剰余金への振替	-	877	-	-	-
所有者との取引等合計	-	827	25,452	3,900	29,353
2023年12月31日時点の残高	1,259	43,437	876,752	38,576	915,328

## (4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

注記	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	24,665	123,970
減価償却費、償却費及び減損損失	121,705	112,062
固定資産除売却損益(は益)	3,631	501
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	1,285	767
受取利息及び受取配当金	2,997	3,169
支払利息	9,475	10,172
為替差損益(は益)	776	5,856
持分法による投資損益(は益)	2,952	536
営業債権及びその他の債権の増減額(は増加)	37,081	7,914
棚卸資産の増減額(は増加)	8,031	6,539
営業債務及びその他の債務の増減額(は減少)	46,075	13,163
契約負債の増減額(は減少)	44,160	24,419
その他	4,009	3,716
小計	201,812	274,227
法人所得税の支払額又は還付額(は支払)	10,385	947
営業活動によるキャッシュ・フロー	191,426	273,279
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	7	158,007
固定資産の売却による収入	7	1,737
その他の金融資産の取得による支出	13	2,389
その他の金融資産の売却による収入	13	463
子会社の支配獲得による支出	6	-
貸付けによる支出	4,639	3,140
貸付金の回収による収入	619	1,028
利息の受取額	428	1,038
配当金の受取額	2,775	2,513
その他	1,700	1,022
投資活動によるキャッシュ・フロー	74,070	155,731
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	3,813	3,370
長期借入れによる収入	2,300	3,000
長期借入金の返済による支出	38,377	54,660
社債の発行による収入	8	19,880
利息の支払額	6,879	7,419
配当金の支払額	10	23,803
非支配持分への配当金の支払額	2,894	3,341
リース負債の返済による支出	17,993	16,079
その他	1,072	849
財務活動によるキャッシュ・フロー	61,106	79,903
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,574	7,167
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	58,823	44,812
現金及び現金同等物の期首残高	494,226	639,247
現金及び現金同等物の四半期末残高	553,050	684,059

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

### 1. 報告企業

日本航空株式会社（以下「当社」という。）は日本に所在する株式会社です。その登記されている本社の住所は、東京都品川区東品川二丁目4番11号です。2023年12月31日に終了する9カ月間の当社の要約四半期連結財務諸表は、当社およびその子会社（以下「当社グループ」という。）、ならびに当社の関連会社および共同支配企業に対する持分により構成されております。

当社グループの事業内容は、主に航空運送事業です。各事業の内容については注記「11. 売上収益」に記載しております。

### 2. 作成の基礎

#### （1）IFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。

要約四半期連結財務諸表は、年度の連結財務諸表で要求される全ての情報を含んでいないため、2023年3月31日に終了した前年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

本要約四半期連結財務諸表の発行は、2024年2月2日に取締役会によって承認されております。

#### （2）機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切捨てて表示しております。

### 3. 重要性がある会計方針

当社グループが要約四半期連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、要約四半期連結財務諸表に係る法人所得税費用は、見積年間実効税率を基に算定しております。

#### （株式に基づく報酬）

当社グループは、取締役および執行役員（社外取締役を除く。）を対象とした持分決済型の業績連動型株式報酬制度を導入しております。当社グループは取締役および執行役員（社外取締役を除く。）の労働の対価を付与する当社株式の公正価値に基づき測定し、その労働の対価を費用として認識し、同額を資本の増加として認識しております。

### 4. 重要な会計上の見積り及び判断

要約四半期連結財務諸表の作成に当たり、経営者は会計方針の適用ならびに資産、負債、収益および費用の報告額に影響を及ぼす仮定に基づく見積り及び判断を行っております。これらの見積り及び判断は、過去の実績および報告期間の末日において合理的であると考えられる様々な要因を勘案した、経営者の最善の見積り及び判断に基づいておりますが、将来における実際の結果は、これらと異なる可能性があります。

見積りおよびその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しによる影響は、見積りを見直した会計期間およびそれ以降の将来の会計期間において認識されます。

経営者が行った本要約四半期連結財務諸表の金額に重要な影響を与える見積り及び判断は、当社グループの中期経営計画を基礎としており、コロナ禍からの回復局面における需要回復までの期間、回復後の需要予測ならびに燃油価格、為替に関する市況変動の予測を含め、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様です。

コロナ禍からの回復局面における需要回復シナリオには不確定要素があり、今後の当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

## 5. セグメント情報

### (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは、主として国際線および国内線の定期および不定期航空運送事業を行っております。したがって、当社グループは、「航空運送事業」を報告セグメントとしております。

### (2) 報告セグメントに関する情報

当社グループの報告セグメントによる収益および業績は次のとおりです。

なお、セグメント間の売上収益は、市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

	報告セグメント	その他	計	調整額	連結
	航空運送事業	(注) 1		(注) 2	(注) 3
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益					
外部収益	873,697	131,892	1,005,590	-	1,005,590
セグメント間収益	49,336	21,103	70,439	70,439	-
合計	923,033	152,995	1,076,029	70,439	1,005,590
投資・財務・法人所得税前利益	21,425	9,494	30,919	70	30,990
投資収益	-	-	-	-	3,790
投資費用	-	-	-	-	66
財務収益	-	-	-	-	853
財務費用	-	-	-	-	10,903
税引前四半期利益	-	-	-	-	24,665

(注) 1. その他には、旅行企画販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去です。

3. セグメント利益は、要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書の投資・財務・法人所得税前利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

	報告セグメント	その他	計	調整額	連結
	航空運送事業	(注) 1		(注) 2	(注) 3
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上収益					
外部収益	1,091,633	157,731	1,249,365	-	1,249,365
セグメント間収益	53,176	22,451	75,628	75,628	-
合計	1,144,810	180,183	1,324,994	75,628	1,249,365
投資・財務・法人所得税前利益	118,057	7,539	125,596	181	125,415
投資収益	-	-	-	-	3,564
投資費用	-	-	-	-	0
財務収益	-	-	-	-	6,554
財務費用	-	-	-	-	11,562
税引前四半期利益	-	-	-	-	123,970

(注) 1. その他には、旅行企画販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去です。

3. セグメント利益は、要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書の投資・財務・法人所得税前利益と調整を行っております。

## 6. 企業結合

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

## 子会社の企業結合

2022年3月24日に行われた株式会社JALUXとの企業結合について、前々連結会計年度において取得対価の配分が完了していないため、暫定的な会計処理を行っていましたが、前第3四半期連結会計期間において取得対価の配分が完了したことから、前々連結会計年度の連結財務諸表を遡及修正しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、取得対価の当初配分額に重要な見直しがなされており、取得資産および引受負債への主な影響額は、識別可能無形資産を含む非流動資産の増加6,989百万円、繰延税金負債を含む非流動負債の増加2,140百万円です。この結果、非支配持分が1,926百万円増加し、のれんが2,922百万円減少しております。

## 取得日現在における取得対価、取得資産および引受負債の公正価値

	(単位：百万円)		
	当初の暫定的 な公正価値	その後の 修正	修正後の 公正価値
<b>取得対価の公正価値</b>			
取得日直前に保有していた被取得企業株式 の取得日における公正価値	6,988		6,988
取得日に追加取得した被取得企業株式の公 正価値	12,533		12,533
<b>取得資産および引受負債の公正価値</b>			
現金及び現金同等物	5,425		5,425
その他の流動資産（注1）	32,377		32,377
非流動資産（注2）	20,018	6,989	27,007
流動負債	21,089		21,089
非流動負債	12,882	2,140	15,022
<b>取得資産および引受負債の公正価値(純額)</b>	<b>23,848</b>	<b>4,848</b>	<b>28,697</b>
非支配持分 のれん	9,982 5,656	1,926 2,922	11,908 2,733

(注) 1. 取得した「営業債権及びその他の債権」の契約上の総額は13,934百万円であり、企業結合日現在の公正価値は13,877百万円です。

2. 企業結合により識別した無形資産6,989百万円は見積将来キャッシュ・フロー、割引率、既存顧客の遞減率、対象商標権から生み出される将来売上収益、ロイヤリティレート等の仮定に基づいて測定しており、その内訳は、顧客関連5,231百万円および商標権1,758百万円です。なお、顧客関連の見積耐用年数は13年～23年、商標権は耐用年数を確定できない無形資産に分類しております。

非支配持分は、被取得企業の識別可能な純資産の認識金額に対する非支配株主の比例的な取り分として測定しています。のれんの主な内容は、個別に認識要件を満たさない、取得から生じることが期待される既存事業とのシナジー効果と超過収益力です。認識されたのれんのうち、税務上損金算入が見込まれるものではありません。

前第2四半期連結会計期間において、前々連結会計年度に連結子会社化した株式会社JALUXの株式をスクイーズアウト手続によって追加取得いたしました。当該取得は2022年3月24日の公開買い付けによる株式取得と単一の取引として会計処理することが適切であると判断しております。

その結果、当グループの株式会社JALUXに対する議決権は60.3%から69.7%に増加しております。

スクイーズアウト手続の取得対価は3,087百万円であり、追加取得に伴い非支配持分が2,653百万円減少し、のれんが434百万円増加し、要約四半期連結持分変動計算書の「子会社の支配獲得に伴う変動」および要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の「子会社の支配獲得による支出」の項目に表示しております。

なお、前第3四半期連結会計期間において取得対価の配分が完了し、前々連結会計年度の連結財務諸表を遡及修正したことに伴い、上記非支配持分およびのれんの影響額を前第2四半期連結累計期間より変更しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）  
当第3四半期連結累計期間において個別に重要な企業結合はありません。

7.有形固定資産

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

有形固定資産の取得および処分の金額は、それぞれ67,847百万円、3,548百万円です。

また、有形固定資産に係る減損損失298百万円を要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書の「減価償却費、償却費及び減損損失」に計上しています。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

有形固定資産の取得および処分の金額は、それぞれ152,922百万円、1,765百万円です。

また、有形固定資産に係る減損損失222百万円を要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書の「減価償却費、償却費及び減損損失」に計上しています。

8.有利子負債

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

著しい増減はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

普通社債20,000百万円（年利1.2%、償還期限2033年6月）を発行しております。なお、社債の償還はありません。

9.引当金

引当金の内訳および増減は次のとおりです。

	資産除去債務	独禁法関連引当金	合計
	百万円	百万円	百万円
2023年4月1日	22,361	4,284	26,645
期中増加額	2,183	-	2,183
割引計算の期間利息費用	53	-	53
期中減少額（目的使用）	1,377	-	1,377
2023年12月31日	23,221	4,284	27,505

引当金の要約四半期連結財政状態計算書における内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 （2023年3月31日）	当第3四半期 連結会計期間 （2023年12月31日）
	百万円	百万円
流動負債	2,737	2,935
非流動負債	23,908	24,569
合計	26,645	27,505

10. 配当金

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(1) 配当金の支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(1) 配当金の支払額

決議日	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	10,925	25.00	2023年3月31日	2023年6月26日
2023年10月31日 取締役会	普通株式	利益剰余金	13,110	30.00	2023年9月30日	2023年12月4日

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

11. 売上収益

(1) 売上収益の分解

売上収益とセグメント収益の関連

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

	セグメント			内部取引調整	合計
	航空運送事業	その他	計		
	百万円	百万円	百万円		
国際線(FSC)					
旅客収入	287,123	-	287,123	-	-
貨物郵便収入	165,436	-	165,436	-	-
手荷物収入	1,332	-	1,332	-	-
小計	453,892	-	453,892	-	-
国内線(FSC)					
旅客収入	335,569	-	335,569	-	-
貨物郵便収入	18,005	-	18,005	-	-
手荷物収入	296	-	296	-	-
小計	353,871	-	353,871	-	-
国際線・国内線(FSC)合計	807,764	-	807,764	-	-
旅客収入(LCC)	19,423	-	19,423	-	-
旅行収入	-	79,437	79,437	-	-
その他	95,845	73,558	169,403	-	-
合計	923,033	152,995	1,076,029	70,439	1,005,590

(注) 1. セグメントの金額はセグメント間連結消去前の金額です。

2. FSCは、フルサービスキャリアを指します。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

	セグメント			内部取引調整	合計
	航空運送事業	その他	計		
	百万円	百万円	百万円		
国際線(FSC)					
旅客収入	471,787	-	471,787	-	-
貨物郵便収入	84,135	-	84,135	-	-
手荷物収入	1,171	-	1,171	-	-
小計	557,095	-	557,095	-	-
国内線(FSC)					
旅客収入	422,575	-	422,575	-	-
貨物郵便収入	17,793	-	17,793	-	-
手荷物収入	360	-	360	-	-
小計	440,729	-	440,729	-	-
国際線・国内線(FSC)合計	997,825	-	997,825	-	-
旅客収入(LCC)	48,298	-	48,298	-	-
旅行収入	-	93,822	93,822	-	-
その他	98,686	86,360	185,047	-	-
合計	1,144,810	180,183	1,324,994	75,628	1,249,365

(注) 1. セグメントの金額はセグメント間連結消去前の金額です。

2. FSCは、フルサービスキャリアを指します。

当社グループは、国際線および国内線に関する旅客・貨物・郵便および手荷物の輸送業務を中心とした「航空運送事業」および「その他」を営んでおります。

これらの事業から生じる収益は主としては顧客との契約に従い計上しており、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。また、顧客との契約からの対価の中に、取引価格に含まれていないものはありません。

なお、当社グループは会員顧客向けのマイレージプログラム「JALマイレージバンク」を運営しており、旅客輸送サービス等の利用に応じて付与するマイレージは、将来当社グループおよび提携他社によるサービスを受けるために利用することができます。付与したマイレージ分を履行義務として認識し、契約負債に計上しております。取引価格は、サービスの利用割合や失効見込み分を考慮した上で、独立販売価格の比率に基づいて各履行義務に配分しております。マイレージプログラムの履行義務に配分された取引価格は要約四半期連結財政状態計算書の「契約負債」として繰延べ、マイレージの利用に従い収益を認識しております。

#### 航空運送事業

航空運送事業セグメントにおいては、国際線および国内線の航空機による「旅客」、「貨物郵便」、「手荷物」の輸送に関連するサービス等を提供しており、主な収益を下記の履行義務の充足時に認識しております。

##### 旅客収入

主に航空機による旅客輸送サービスから得られる収入であり、当社グループは運送約款等に基づき、顧客に対して国際線および国内線の航空輸送サービスの提供を行う義務を負っております。当該履行義務は旅客の航空輸送役務の完了をもって充足されます。販売に当たっては、売上値引きの実施や販売実績に応じた割戻の支払いを行うことがあるため、取引の対価には変動が生じる可能性があります。また取引の対価は、通常、履行義務の充足前の一定時点に前もって受領しております。

##### 貨物郵便収入

主に航空貨物および航空郵便の輸送業務により得られる収入であり、当社グループは国際線および国内線に係る貨物および郵便の輸送サービスを行う義務を負っております。当該履行義務は貨物および郵便の航空輸送役務の完了をもって充足されます。なお、売上収益に含まれる変動対価の額に重要性はありません。また取引の対価は、通常、貨物および郵便の航空輸送役務の完了後、主として2カ月以内に受領しております。

##### 手荷物収入

主に航空機による旅客輸送に付随して行う手荷物輸送サービスから得られる収入であり、当社グループは顧客に対して国際線および国内線手荷物の航空輸送サービスの提供を行う義務を負っております。当該履行義務は手荷物の航空輸送役務の完了をもって充足されます。なお、売上収益に含まれる変動対価の額に重要性はありません。また取引の対価は、通常、手荷物輸送当日において受領しております。

##### その他

主に、特典航空券を除くマイレージの特典サービスや航空運送に係る業務受託サービスから得られる収入であり、当該履行義務はサービスの完了をもって充足されます。

#### その他

その他の事業においては、航空輸送を利用した旅行の自社による企画販売や、卸売および小売等を通じた商品の販売、クレジットカード事業等を行っております。

旅行の企画販売やクレジットカード事業に係る収益は主に、サービスの提供に伴い一定期間にわたって認識しております。これらの取引の対価は主に、履行義務の充足前の一定時点に前もって受領しております。また、商品の販売に係る収益は当該商品の引渡時点や顧客による検収完了時点で認識しており、取引の対価は主に履行義務の充足以後の一定時点に受領しております。

12. 1 株当たり利益

基本的 1 株当たり四半期利益の算定上の基礎は次のとおりです。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 12 月 31 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 12 月 31 日)
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (百万円)	16,313	85,872
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益 (百万円)	-	-
基本的 1 株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益 (百万円)	16,313	85,872
期中平均普通株式数 (千株)	437,007	437,007
基本的 1 株当たり四半期利益 (円)	37.33	196.50

(注) 希薄化後 1 株当たり四半期利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

13. 金融商品

金融商品の公正価値

公正価値を測定するために用いる評価技法へのインプットは、市場における観察可能性に応じて以下のいずれかに分類されます。

レベル 1：活発な市場における同一の資産または負債の市場価格 (無調整)

レベル 2：レベル 1 以外の、直接または間接的に観察可能な価格で構成されたインプット

レベル 3：観察可能な市場データに基づかないインプット

公正価値の算定方法

金融商品の公正価値の算定方法は次のとおりです。

(現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権、営業債務及びその他の債務、流動の有利子負債)

短期間で決済されるため、公正価値は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(その他の金融資産、その他の金融負債)

活発な市場のある資本性金融商品の公正価値については、期末日の市場価格によって算定しております。活発な市場のない資本性金融商品等の公正価値については、類似会社の市場価格に基づく評価技法等により算定しております。投資事業有限責任組合への出資については、組合財産に対する持分相当額により算定しております。

デリバティブの公正価値については、取引先金融機関から提示された為替相場等の観察可能なインプットに基づき算定しております。

(非流動の有利子負債)

将来キャッシュ・フローを、新規に同様の契約を実行した場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

償却原価で測定される金融商品

償却原価で測定される金融商品の帳簿価額と公正価値は次のとおりです。

なお、帳簿価額と公正価値が極めて近似している金融商品および重要性の乏しい金融商品については、次表に含めておりません。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
	百万円	百万円	百万円	百万円
償却原価で測定する金融負債				
非流動				
社債	248,566	238,157	258,666	254,369
長期借入金	514,216	522,826	464,088	470,846
合計	762,783	760,983	722,754	725,215

(注) 社債の公正価値はレベル2に、長期借入金の公正価値はレベル3にそれぞれ分類しております。

公正価値で測定される金融商品

公正価値で測定される金融商品の公正価値ヒエラルキーは次のとおりです。

前連結会計年度(2023年3月31日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
資産:				
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式等	53,550	-	37,304	90,855
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
投資事業有限責任組合への出資	-	-	12,777	12,777
ヘッジに指定されたデリバティブ資産	-	12,023	-	12,023
合計	53,550	12,023	50,082	115,655
負債:				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
ヘッジに指定されたデリバティブ負債	-	5,683	-	5,683
合計	-	5,683	-	5,683

当第3四半期連結会計期間(2023年12月31日)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円
資産：				
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式等	55,983	-	39,046	95,029
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
投資事業有限責任組合への出資	-	-	14,218	14,218
ヘッジに指定されたデリバティブ資産	-	6,885	-	6,885
合計	55,983	6,885	53,264	116,133
負債：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
ヘッジに指定されたデリバティブ負債	-	6,824	-	6,824
合計	-	6,824	-	6,824

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替を生じさせた事象または状況の変化が生じた日に認識しております。各年度において、公正価値レベル1とレベル2の間の重要な振替は行われておりません。

評価プロセス

レベル3に分類される金融商品は活発な市場のない資本性金融商品等であり、適切な権限者に承認された公正価値測定に係る評価方法を含む評価方針および手続に従い、評価者が各銘柄の評価方法を決定し、公正価値を算定しております。その結果は適切な権限者がレビューおよび承認しております。

レベル3に分類された金融商品の評価技法およびインプット

レベル3に分類した活発な市場のない資本性金融商品等について、合理的に入手可能なインプットにより、類似企業比較法等を用いて算定しております。前連結会計年度および当第3四半期連結会計期間において、株価純資産倍率は1.0倍～1.2倍です。なお、必要に応じて一定の非流動性ディスカウント等を加味しております。株価純資産倍率が上昇した場合は、公正価値は増加します。

レベル3に分類された金融商品の期首残高から期末残高への調整表  
レベル3に分類された金融商品の期首から期末までの変動は次のとおりです。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
期首残高	49,857	50,082
利得及び損失		
純損益(注)1	1,006	744
その他の包括利益(注)2	66	1,156
購入等による増加	-	1,387
売却等による減少	29	21
レベル3からの振替(注)3	-	83
期末残高	50,900	53,264
報告期間末に保有している資産について純損益に計上された当期の未実現損益の変動(注)1	1,006	744

- (注)1. 要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書の「投資収益」および「投資費用」に含まれております。  
2. 要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産」に含まれております。  
3. 当第3四半期連結累計期間に認識されたレベル3からの振替は、投資先が取引所に上場したことによるものです。

#### 14. コミットメント

期末日以降の支出に関するコミットメントは次のとおりです。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
	百万円	百万円
航空機	934,650	889,244
その他の有形固定資産	-	70
無形資産	372	271
合計	935,023	889,586

#### 15. 後発事象

2024年1月2日に日本航空516便(新千歳空港発 羽田空港着)が、羽田空港に着陸後、海上保安庁の航空機と衝突し、機体が炎上する事故が発生しました。

現時点においては、航空機が全損したことによる当該資産に対する損害の見込み額の合計は、約150億円となり、営業費用として計上する予定です。なお、当該航空機については、航空保険が適用されるものと見込んでおりますが、実際の保険査定額は現時点で未確定です。

## 2【その他】

2023年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議しました。

配当金の総額	13,110百万円
1株当たりの金額	30.00円
効力発生日	2023年12月4日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月5日

日本航空株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大塚 敏弘

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田中 敦

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 有吉 真哉

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本航空株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益及びその他の包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、日本航空株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。